朝明中学校通信 （校長便り）	和　学　鍛	H27．1．23（金） 第１８号

いよいよ入試シーズンの到来です

先週末には、大学のセンター試験が実施されていました。高校受験もこれからが本番となります。今週末からは毎週のように私立高校の受験が続き、２月の第２週には県立高校の前期選抜も実施されます。多くの３年生にとって、これからしばらくは緊張する毎日となります。

保護者の皆さんも、中学校の３年間は実に短かったという印象を持たれている方が多いのではないでしょうか。部活動や教科担任制など、小学校とは違う学校生活に慣れたかと思うと中１も終わり。変声期など体つきが大きく変わる中２を経るともう中３。そのように辿ってみると、早い時期から進路について、折に触れて考えていくことが重要です。

さて今回は、有名な野球選手による受験生へのメッセージが、インターネットの新聞に掲載されていましたので紹介します。

＜受験と私＞上原浩治さん原点の浪人経験　苦しい時は１９を見る

米大リーグ、ボストン・レッドソックスの２０１３年のワールドシリーズ制覇を支えた上原浩治投手（３９）。「クローザー」としてチームメートや監督から絶大な信頼を得ていた上原投手の登板は、常に苦しい場面ばかりでした。重圧をはね返す力になったのは、「背番号１９」。その裏付けは、浪人経験だといいます。

（上原投手の話）

大学を卒業してプロ野球の巨人入団からずっと付けている背番号「１９」は、「１９歳の時の苦しさを忘れないように」との思いで選びました。高校生の頃は、大学に行って４年間野球をやり、その後は体育教師になろうと思っていました。そのため、自宅から通え、自由な校風の大阪体育大（大体大）への進学を考えていました。

高校３年間は野球漬けで全く勉強しなかったため、知識はほぼゼロに近かった。浪人してから、中学レベルからやり直そうと、予備校の一番下のクラスに入りました。午前９時から午後５時ごろまで予備校で勉強。うまく気分転換しないとおかしくなってしまいそうだったので、夕方からスポーツジムでウエートトレーニング（筋トレ）をしていました。振り返ってみると、無理に受験のテキストを開かず、中学の勉強からやり直したことが良かったように思います。野球もキャッチボールなど基礎が大事ですが、基本をおろそかにしていると応用もできません。

好きな教科なんてありません。でも、やらないといけなかったので。逃げては通れない道ですからね。あの時、勉強したから今があると思っています。もしスムーズに現役で受かっていたら、今の自分はないかもしれない。だから振り返ると、あの１年があって良かったと思います。もっと野球が好きになりましたから。

大学を選ぶに当たって一番大事なのは、自分が何をしたいかだと思います。単に友達が行っているから、という理由だったら絶対、やめた方がいい。僕の場合は体育教師になりたいという夢がありました。浪人の１年は本当にきつかった。ですが、あの１年があったから、野球でしんどい場面があっても、そんなに気にやむことはありませんでした。やっぱり、先が見えない１９歳の時が一番つらかったから。

クローザー（試合の終盤で登板し、最後を締めくくる投手）はきつい。チームの勝利のかかった大事な場面でマウンドに上がり、抑えることを当然のように求められます。でも、そういう時も背番号を見れば、「１９歳の時に比べれば、好きな野球を仕事にしている。そんな幸せなことはない」。そう思うとすごく気が楽になるんですよ。

大事な場面でマウンドを任される時、満員のスタンドを見上げます。「わー、すごいお客さんがおるわー」。試合だけにとらわれることなく、球場を見回してみる。勝負とは別のことが頭に浮かんできて、またパッと試合に気持ちが向かいます。野球は投手が投げなければ始まりません。自分が主役です。受験も自分が主役。試験監督が「よーい、始め」と言ったら、１分ぐらい周りを見渡して、心を落ち着かせてから始めるのもいいんじゃないでしょうか。見渡したらカンニングと思われちゃうか（笑い）。

派手なこと、奇をてらったことで注目を引かなくても、こつこつ努力している人は、誰かがちゃんと見ていてくれるものです。野球でも球団によって目立ち方が全く違い、「自分の方が成績を上げているのに、なんであいつが目立つんだ」ということもあります。でも第三者より、まず自分がこつこつ頑張っていけば、間違いなく自分に返ってきます。人はなるようにしかなりません。ただ、やることをきちっとやって、なるようになるための努力をしてきたかどうかで違いが出ます。

僕は今３９歳。メジャーリーグ（アメリカ大リーグ）に来たのは、野球選手にしては遅めの３４歳です。こつこつやってきたことが１０年、１５年を経て実を結ぶことがあります。だから、やっぱり諦めるな、ということですよ。受験もそう。今やった勉強がすぐ受験に役に立つかは分かりませんが、試験の前日まで、最後の最後まで頑張ることが大事です。

この年齢でレッドソックスの２年契約を取れたということで、提示してくれた球団や関係者、ファンにはすごく感謝しています。またそういう人たちのためにも頑張らんとあかんなと思います。頑張っている人にしか野球の神様は降りてきません。それは受験勉強も同じで、頑張った人にちゃんと点数が与えられると僕は信じています。ここまできたらちゃんと体調管理すること、最後まで諦めずにやることだと思います。改めて浪人の１年を振り返り、自分でもようやったなと思います。僕は今でも「尊敬する人」を聞かれると、「勉強している浪人生」と答えるんですよ。それくらい大変だってことを、身をもって経験しましたから、受験生には本当に頑張ってほしいなと思います。

（1月 19 日付　yahoo japan 掲載　毎日新聞記事から）

◇うえはら・こうじ　１９７５年鹿児島県生まれ、大阪育ち。レッドソックス投手。大阪体育大卒。９９年ドラフト１位で巨人入団。同年に２０勝を挙げ、最多勝、新人王、沢村賞など各タイトルを獲得。０９年に米大リーグ・オリオールズに入団。１１年レンジャーズ、１３年からレッドソックスでプレー。１３年、ワールドシリーズを制して日本人初の「胴上げ投手」に。著書に「闘志力。人間『上原浩治』から何を学ぶのか」（創英社）など。

※「和学鍛」はホームページにも掲載いたします。